



2019年度 杏林大学 一般入学試験

- I (1) ア.イ. 9.0      ウ.エ. 81  
(2) オ.カ. 2.0      キ.ク. 3.0      ケ.コ. 1.0  
(3) サ.シ. 12      ス.セ. 12      ソ.タ. 24      チ. ①

- II (1) ア.イ. 1.5      ウ.エ.  $\frac{1}{4}$   
(2) オ.カ. 1.1      キ. ②      ク. ①  
(3) (a) ケ.コ.サ.  $\frac{1}{16}$       (b) シ.ス.セ. 223      ソ.タ. 88

- III (1) (a) ア.イ.  $\frac{3}{4}$       ウ. 3      エ.オ.  $\frac{9}{4}$       カ.キ.  $\frac{4}{3}$   
(2) (b) ク.ケ.  $\frac{2}{5}$       コ.サ.  $\frac{8}{5}$       シ.ス.  $\frac{6}{5}$   
(c) セ.ソ.  $\frac{2}{5}$       タ.チ.  $\frac{4}{5}$       ツ.テ.  $\frac{2}{5}$       ト.ナ.  $\frac{4}{5}$       ニ.ヌ.ネ.ノ.  $\frac{48}{25}$

- IV (1) (a) ア. ⑤      イ. 1      ウ. ⑤      エ. ⑤      オ. ③      カ. ④  
(b) キ. ⑤



2019年度 杏林大学 一般入学試験

【 講 評 】

各問題は基本的な問題や標準的な問題だが、制限時間を考えると全体を解答するにはそれなりの学力が必要となる。標準レベルの問題集をしっかりと学習して学力を付けておく必要がある。

I. 小問集合 (力学、熱力学、波動)	難易度：易
(1)は力積と運動量変化、仕事と運動エネルギーの変化の基本問題。(2)気体の状態変化と熱サイクルでの正味の仕事を求める基本的な問題。(3)ドップラー効果の基本的な問題。いずれの問題も基本的な問題で、数値計算も容易である。	
II. 小問集合 (電磁気、原子)	難易度：易
(1)磁場の中で回転する導体に生じる起電力の大きさ。学習したことがあれば、容易に解けるだろう。(2)光電効果の基本的な問題。[eV]で求める点がポイントとなる。(3)放射性崩壊の基本的な問題。	
III. 力学 (単振動)	難易度：標準
ひもでつながれた 2 物体の単振動と、摩擦のある水平面上での単振動。どちらも問題集などにある代表的な問題である。(1)と(2)では、ばね定数を表す文字が異なるので注意しよう。	
IV.電磁気 (交流回路)	難易度：標準
交流回路の標準的な問題であるが、 $\beta$ の扱いに注意が必要となる。 $\beta = -\pi/2$ として考えると解答がないので、 $\beta = \pi/2$ が解答となり、才は③が正解となる。ここは、少し戸惑う点である。	

最終合格へのラストスパート!!!!!!

# 医学部後期入試対策講座

埼玉医科大・金沢医科大・藤田医科・杏林・久留米・近畿大・  
関西医科大・大阪医科大 申し込み受付中

イシャ ニナロウ  
お問い合わせは ☎ 0120-148-276